

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500673		
法人名	有限会社 上田企画		
事業所名	グループホーム かやぜの里		
所在地	長崎県大村市田下町473-1		
自己評価作成日	平成22年2月28日	評価結果市町村受理日	平成 22年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 22年 3月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域や、家族とのつながりを重視している。理念に添った、穏やかな生活を継続していただくこと。経営者、職員間の円滑なチームワークなどに力を入れている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、緑の山々に囲まれたのどかな場所にあり、目の前の中学校からは、子ども達の元気な声が聞こえてくる。地域の助け合いが残っている場所でもあり、地域の方々同士、顔なじみの関係が保たれている。21年7月、ホーム長が代表に就任(兼務)した。親子代々、この地域に暮らしてきた代表(ホーム長)は、地域の方々とも顔なじみの関係にあり、代表(ホーム長)を知っているご利用者も多い。地域の消防団にも入っており、小学校活動なども日常の中で行われている。ホーム運営に携わってきた代表(ホーム長)の奥様の役割も大きく、介護支援専門員の方とも力を合わせ、様々な課題に向き合い、乗り越えてこられた。ご利用者と職員の実顔を見るために、一心に努めてきた7年でもあり、昨年(21年)から、ようやく光が見え始めてきた。この1年、職員の離職はなく、ホーム内の温かさは増し、穏やかな時間が流れるようになってきている。今まで、思うように職員の研修ができない状況でもあったので、22年度から、原点に立ち返り、“尊厳”“認知症ケア”“ホームの理念”等の理解を深め、新たな“かやぜの里”を作っていく予定である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時にその時の職員と一緒に理念を掲げた。理念の実現を！と日々取り組んでいるが、まだ不十分で、理念の理解が統一されていない部分もある。	新体制になった時、開設時の理念を大切にしながらも、「優しく、さりげなく、穏やかに」という新たな理念が作られた。介護目標には、開設時の理念の一部「自分らしくありのままに…」という言葉が残されており、事務所に掲示されている。職員から「理念が好き」という言葉も聞かれており、“理念”を口にする機会も増えている。	職員同士で、“さりげなく”ケアができていないか等、確認を行う姿も見られている。ケアの現場でも、その効果は見られてきており、ご利用者の表情は温かい笑顔に満ちていた。今後も常に、ご利用者の立場になり、最善のケアを考え続ける場を増やしていく予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議を通したり、学校行事、地域のボランティア受け入れや、祭りごとの参加など交流の場を増やしつつある	ホーム長の地元でもあるが、地域の助け合いが残っており、地域の方々皆さんが、子ども達の成長を見守ってくださる。21年度は、地域の情報を増やすため町内会にも入り、ご利用者と一緒に回覧板を回す活動も行っている。保育園等の運動会、秋祭りの見学等にも参加している。	【外部評価13 災害対策共通】 更に、近隣の地域の方々とのお付き合いを深め、災害時等(特に夜間等)の協力体制を作っていきたいと考えている。まずは、近隣の方への挨拶から、始めていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護、サービスについてなど相談窓口になれるよう、気軽に立ち寄れるように看板を掲げたり、電話での相談等の取り組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、先月に昨年度の分を報告させて頂いたが中身の詳しいところまで報告できず、意見を頂くところまで至っていない。	ご利用者家族、地域住民代表者、市職員に参加頂き、開催している。会議に積極的に関わって頂くため、案内を密に行うと共に、参加者との親睦会を開くなど、和気あいあいとした雰囲気で見聞交換ができるように努めてきた。災害時の持ち出し物品の整備や、レクリエーションのアイデアを頂き、日々の運営に活かしている。	会議は公民館で行う事が多く、わかりやすい議事録も作っている。今後は、欠席されたご家族にも配布し、会議内容の伝達をしていく予定である。また、ご利用者と一緒に昼食試食会等も行われており、今後は、ご利用者の参加も検討していく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、行き来はしてホームの状況を、報告したり、アドバイス頂きながら積極的に質の向上に取り組む努力はしている。	毎月、ホーム長が市を訪問しており、ホームの状況の報告を行っている。勤務体制、処遇改善交付金、アンケートについて等、わからない事があれば相談させて頂くと、すぐに調べて教えて下さっている。市の担当者は、ホームへの訪問もされており、取り組みの確認も行われている。今後も、市との連携を続けていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修はもちろん、ホーム内勉強会でも意義を十分に理解し、身体拘束をしないケアを徹底している。	20年度、身体拘束の勉強会に、ホーム長と介護支援専門員が参加し、「言葉も拘束になる」ことを含め、他の職員にも伝達研修をしている。“職員に生き生きと働いてもらう事で、ご利用者の笑顔も増える”と、ホーム長は考えており、「身体拘束はしない！」という方針のもと、日々のケアにあたっている。	新しい職員も入っており、改めて“身体拘束”への理解を深めていく予定である。拘束を1度でもすると、職員の意識にずっと残り、「このくらいなら…」という気持ちが生じる可能性もある。医療との連携も回りながら、「身体拘束をしない」ための方法を考えていく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や、ホーム内勉強会を通して学ぶ機会を設けただけ多く参加して学べるように配慮している。ケア全般において虐待については最重要項目として防止の徹底を図っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなかなかとれず、ホーム内勉強会でも予定しているが、まだ、制度について職員は熟知していない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に訪問したり、ケアマネを通して情報収集しながらコミュニケーションをとりながら理解、納得を図れるように努力、工夫をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置の意見箱はあまり機能していない。なかなか率直に意見や不満を言えるような機会は作れてない現状である。	毎月“かやぜの里だより”を発行し、各担当者が書いた“暮らしぶりの報告書”も送られている。面会時、ご家族との会話も大切にされている。ご家族からの提案で、21年4月、家族アンケートを行った。ご家族と一緒に質問内容も考えたもので、今後も継続していく予定である。ご利用者の意見も、日々の会話の中で伺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で、意見交換や業務改善など提案を聞く機会は設けている。	ホーム全体の雰囲気が活気に満ちていて、職員も自由に、ホーム長等との意見交換が行われている。職員からのアイデアも多く、それぞれの職員の得意分野を活かした取り組みが、至るところで見られた。毎月のミーティングでも、レクリエーション、食材費を含む金銭の取扱い等についての意見が出され、実行されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内の各種セミナー、研修への参加、管理者の実践リーダー研修、ケアマネの専門課程研修への参加などをはじめ、今年度よりホーム内勉強会も定期的に行っている。勤務の体制もなるだけ配慮し、学ぶ機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の中で、「相互評価」や職員の「交換研修」など行われており、参加し交流の機会を持っている。親類の経営するホームも市内にあり、研修に参加させて頂いたり、互いに情報交換したりもしている。		

自己	外部	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接、家庭訪問などを通じて、家族、本人、関係者とお会いして、状況把握し、十分に話をお聞きする機会を入居前に作るようにしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	23と同じく、その他、時と場合によっては、ご本人と席を離れた場で話を十分にお聞きし、本音の部分聞けるように努力している。。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その他のGH情報や、GH以外のサービスや、介護保険外の情報などフォーマル、インフォーマルも問わず情報提供して一緒に対応を考えている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする、ということで支援させて頂いている。年長者、人生の先輩として、尊厳をしっかりと持って、時にはお尋ねをしたり、家事を手伝って頂いたり、一緒に笑ったり、怒ったり、悲しんだり、一日一日を大切に！と思っている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランを通して、一緒に考え、情報交換しながら家族の本音を聞けるような信頼関係の構築を目指している。また、面会時や家族親睦会時にはゆっくり話す機会を作り円滑にコミュニケーションが取れるように取り組んでいる。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に来て頂き、一緒に外出なども積極的にして頂いている。近所に自宅ある入居者様は、時々犬にえさやりに出かけたり、町内の行事に参加されている。 ご利用者は地元の方も多く、ホーム長のご家族と知り合いの方もおられる。町内行事の時に、馴染みの方と交流を行ったり、馴染みの商店への買い物や美容院の利用も続けられている。入居前の町内の方や、職場の方が面会に来られる事もあり、遠方のお孫さん等に手紙を出される方もおられ、関係継続の支援が続けられている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や、散歩や、お手伝い、外出時の車の乗り合わせなど、気の合う方同士に配慮したり、入居者様間で声を掛け合ったりして関わり合いの様子を見たり、十分に関係を把握しながら支援している。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に、在宅に戻られた方などは、家庭訪問したりケアマネと情報交換したり、電話でご相談を受けたり、出来る限り支えになれるようご配慮させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族にお尋ねしながら、ご本人の言動、行動、生活歴などアセスメントしながら意向の把握に努めている。思いや、意向の本質の部分を知ることが大切で、すぐに把握できないこともあるので時間の経過をみながら検討している。	ホーム内はゆっくりとした時間が流れており、ご利用者との会話も多い。日々の生活は“ご利用者主体”で行われ、ご利用者同士の支え合いも強くなっている。ご利用者の意向を大切にされており、献立作りにも参加されている。意思疎通が難しい方には、ご家族からの情報も頂きながら、ご本人の真意を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時をはじめ、情報収集しながら十分アセスメントできるよう努力している。ご本人からも同時にお尋ねしながら、これまでの暮らしの楽しかったこと、つらかったことなど事実確認をするのではなく、発せられる言動の内容に着目して、何を大切に生きてこられたかを予測、代替できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報交換し、日中と夜間の様子などの違いなども把握できるように記録、申し送りなどより現状把握に努めている。有する力等は発揮できるように、引き出すことも出来るので、時間を少しかけながら把握していきたいと思っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者や介護担当者を中心に、他の職員からの聞き取りや、主治医からのアドバイス、職員会議などを反映させ、家族へも意向をケアプラン作成時に毎回お尋ねしながら作成している。	センター方式等を活用し計画を作成しており、ご本人にもわかりやすい言葉で作られている。外出など“地域で暮らす”視点も盛り込まれ、3表には、24時間の生活の中で、“できること”“支援すること”が詳細に入っている。毎月、職員3人で“アセスメント表Ⅱ”の項目チェックが行われ、3か月毎に、更に詳細な見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は2種類使用して、身体面の観察記録と、「フォーカスチャータリング方式」にて経過記録がある。情報の共有や介護記録の見直しのほかに、職員の気づきのツールとして、入居者様の「日々の日記」を綴らせて頂いているような意味合いも、当ホームの個別記録には含んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型のデイサービスの利用も可能である。利用の延長なども可能で、なるだけ要望に応じていただけるように努力している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議等を通じて、町内会長、民生委員など意見交換し、ホームの現状を把握して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である医院と、24時間医療連携も契約させて頂きながら週に1回の訪問診療も受けている。緊急時も医院に相談しながら安心して医療を受けられる体制作りをしている。	ご入居前のかかりつけ医を継続して頂くようにしているが、ホームの協力医院がかかりつけ医だった方も多い。協力医院は、適宜、適切な医療機関を紹介して下さり、アドバイスも頂ける関係ができています。職員が通院介助もっており、受診結果については、電話で報告している。現在、往診を利用している方はおられない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護職員も勤務しており、また連携医院の看護師も入居者様の状態把握して下さり、24時間対応にて気軽に相談できる人間関係もあり、連携を持って支援させて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される病院には、十分に情報提供できるよう、紙面でも「介護情報提供書」を提出し、病院関係者、ご家族と情報交換しながら面会にも瀬回りに行きながら安心して入院できるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	47上記内容のように、支援をさせて頂けるように検討、準備中である。	“看取り介護の指針”が作られており、看護師、介護職などの役割も明記されている。ご利用者、ご家族の中には、「最期はホームで」という希望も多く、医療連携を図りながら、終末期ケアを行う方針となっている。ご本人の病状などは、随時ご家族に報告し、ご家族との話し合いも行われている。夜間帯の急変時の連絡網、役割分担優先順位なども決められている。	今後は、24時間往診体制や訪問看護の利用に向けた話し合いを行っていき、共に、ホームでできる“医療行為”についても、更に明確にしていきたいと考えておられる。更なる、マニュアル整備を行いながら、職員の研修や精神的支援も行っていく予定である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行ってはいないので、今後はホーム内勉強会などを通して行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災訓練はしているので、的確に冷静に行動できるように身体に覚えさせ、身につけていきたい。まだすぐ近隣の方々との協力も得られるように、働きかけて関係作りを促していきたい。	ホーム長は地元の消防団の団員である。緊急時に備え、よりホーム内の環境を知って頂くため、消防団の方々に建物内を見学して頂いたり、運営推進会議の時に、参加者にも避難訓練に参加して頂いた。会議の中で、「パソコン内にある連絡網のバックアップを取っておいたほうがよいのでは」というアドバイスも頂いている。	災害時に備え、懐中電灯等を購入した。水は山水を利用でき、食料は近所の商店から支援頂けるようになっている。町内会長を始め、町内の方々への協力依頼もできているが、更に、近隣の方々への挨拶を行い、夜間等の緊急時の応援体制を整えていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言を使ったりはあるが、尊厳の気持は忘れずに声をかけていくよう努力している。記録物に関しては個人別にファイルに整理し直して取り扱いに配慮している。	理念の言葉にあるように、日々、職員は“優しく さりげなく 穏やかに”接するよう努めている。理念の振り返りも行われるようになってきたが、“優しく さりげなく”支援する事の難しさを、職員も感じている。声かけ等で気になる場合は、ホーム長等も個別に伝えるようにしている。	ご利用者への声かけのあり方を、全職員で振り返り、常に、目の前のご利用者の気持ちを考えたケアが行えるよう努めていく予定である。「ダメよ」「座って」等の伝え方含めて、職員自身の姿、ご本人の心理を、冷静に見つめられる機会が増えていく事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の「代弁者」でありたいと思っている。思いを表出していただけのように、信頼関係を築いていくことに努力している。何事も、きちんと説明をして、納得して生活を営めるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、食事や、入浴などご希望をお尋ねしながらペースを大切に出来るように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の衣服の調整を一緒にしたり、日々身だしなみを整えたりはあるが、理容・美容は特に希望がなく、ホーム内に近隣の方が来てくださっている。その他ご希望があれば沿うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、食材の下ごしらえ、味付けや、盛り付けなどして頂けるように積極的に声をかけている。時には調理方法などもお尋ねしながら、なるだけ関わって頂けるように配慮している。	野菜は、ホーム長のご実家で作られたものを使用されている。ご利用者の好みを重視し、回転寿司の夕食やバイキング、ハンバーガー、チョコレートフォンデュ等を楽しまれ、時には広いベランダでの食事を行うなど、日々、工夫を凝らされている。訪問した日も、餃子をご利用者と作られており、準備や片づけも一緒に楽しまれておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量の確認をしながら、主食をおにぎりにしたり、おかずを刻んだり、量の調整をしたり、体重管理をしながら個々に合ったものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には、毎食後の口腔ケアは徹底している。歯科医との協力にて、往診に来て頂きながらアドバイスをもらいケアに生かしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	寝たきりオムツ使用であられても、一日一回はトイレに座り排便して頂いたり、パターンや、しぐさなどご様子を把握して時間毎にトイレにお連れするようにしている。	トイレでの排泄を目指して、日々のケアに努められている。布パンツを使用する事の大切さも意識されており、排泄状況に応じて、布パンツへの移行を検討されている方もおられる。日中は全員の方がトイレを使用できるよう、トイレ誘導をこまめに行っており、理念にもある“さりげなく”を意識して、羞恥心への配慮もされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、食事、飲水などに工夫をしながら取り組んでいる。排泄パターンを把握してトイレに座って頂いたり、タイミングははずさない努力もしている。主治医とも相談しながら緩下剤の与薬や、座薬、洗腸使用などで最終的な対応としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	「寝る前に入りたい」と希望される方には、そのように対応して、失禁された場合などいつでもシャワー浴、入浴が出来るようにしている。大まか、入浴日は決めていたが行事などに合わせて変更している。	仲の良いご利用者同士で入浴される方もおられ、歌を唄われたり、おしゃべりを楽しむ等、リラックスできる時間となっている。季節に合わせた入浴剤や柚子湯を楽しめることもあり、異性の介助を嫌がる方には、同性介助が行われている。職員にとっても、入浴介助時は、会話をし楽しむひと時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠量や、活動量、入浴の有無なども考慮しながら、休息できる場所も、居室や畳の間など状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	まだ、全職員が理解しているとは言い難い。介護担当者を決めたので少しずつ個々に把握していけるように努力している。服薬支援についても留意点などマニュアルを作り、誤薬のないように努力をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒にコーヒータイムをしたり、お天気がよければ散歩に行ったり花を摘んだり、おはぎを作ったり、保育園の運動会の応援や、趣味の大正琴を居室でたしなんだり、入居前からの趣味の絵画を一日中好きなだけしたり、一日一日を張り合いのある生活になるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒にホームの買い物にお連れしたり、花の季節には花見のドライブ、気候がよい日は毎日散歩。地域の行事への参加など頻りに戸外に出かけている。	天気のよい日には、毎日のように散歩をされている。散歩の途中で近くの池の鯉にエサをやったり、柿の実採りをされたりすることもある。諫早への日帰り温泉旅行や、ドライブ、桜、しゃくなげ、菖蒲などの花見など、遠出の外出も行われている。散歩、買い物や地域の行事への参加など、日常的に外出は行われており、今後も継続の予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、基本的にどなたもされていない。入居時よりされていないが買い物に行く機会が少なくお金を所持する状況をなかなか作っていない状況である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、こちらで電話をかけたり、ご本人持参の携帯電話にご家族からかかってきてご本人が出たりはあるが、手紙を書いてもらったりなどのやり取りはしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を、花瓶に飾ったりカーテンやブラインドを利用して調整している。	ホールは、歳時のもや、ご利用者のご家族の作られたレース編み、ご利用者の写真などで飾られており、明るくつろげる雰囲気である。ホールの一部の畳のスペースには炬燵があり、ご利用者が炬燵で過ごされることもある。 ホーム内は、程よい温度に保たれているが、寒がりの方には、なるべく暖房の近くに座っていただくなどの配慮もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には畳の間があってゴロンと横になったり、洗濯物をたたんだり、縁に座って話したり、2階廊下にはソファがあり、ゆっくり座ってつろげる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭からの持込は自由にして頂いている。使い慣れた座椅子や、タンス、小物など好みのものを居室に置いて頂いている。	1階と2階に居室はあり、それぞれ、ご本人の希望に応じて、家具の配置も自由にして頂いている。使い慣れたものを持ちこんで頂いており、時計、大正琴、聖書、仏壇、テレビ、座イスなどが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かること、分からないことを見極め、表示すること、繰り返し行動することなど個々に合わせて混乱を防ぎ、安心して過ごせるように配慮している。		

事業所名: グループホーム かやぜの里

作成日: 平成 22 年 3 月 31 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の実現を！と日々取り組んでいるが、まだ不十分で、理念の統一されていない部分もある。	理念の意図するところを全員の職員が理解し、実践につなげていく。	今後も、朝の理念の唱和を継続しながら、各々の職員が互いのケアを確認し、声を掛け合いアドバイスが出来る環境作りをしていきたい。認知症介護の研修等にも参加しながら、具体的に実践につなげていきたい。	6 ヶ月
2	2	事業所と、地域のつきあいを広げていき、地域の人々に気軽に立ち寄っていただけるような環境作り。	地域の方々と、交流の場を増やし防災関係なども協力をいただけるような関係作りをする。	地域運営推進会議を中心に、ご家族の参加も積極的にお願ひし、ひき続き、ボランティアの受け入れも行っていく。町内活動に一つでも多く参加したり、ホームの季節の行事など参加の声かけをして、ホームをもっと身近に感じていけるようにする。	12 ヶ月
3	6	全職員が、意義を十分に理解して、身体拘束をしないケアを徹底していきたい。	身体拘束をしないケアの実践を行う。	全職員が、研修を受講して、また、ホーム内勉強会を行い、職員間でも認識を高めていく。	12 ヶ月
4	26	チームで作る介護計画とモニタリングする。	ケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、意見や、要望、またはお気持ちの代弁をし、それらを反映して、現状に即したケアプランを作成する。	職員間で、入居者さまの担当を決めて、アセスメントし、モニタリングしていく。それを計画作成担当者が確認して、話し合い作成していくようにする。日々のケアカンファレンスでの決定事項は「24時間の過ごし方」に記入して、日々モニタリングしたり、計画変更し、即実践に結びつけていく。	6 ヶ月
5	36	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳ある姿勢を絶やさず、発する言葉にもしっかりと配慮していく。	入居者様への声かけのあり方を、全職員で振り返り、待遇等の研修参加や、来客への対応や、電話対応なども含めて勉強会を行っていく。	12 ヶ月

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
6	4	運営推進会議が、報告会止まりとなっているので、話し合いや、意見が活かされていない。	出来るだけ、家族の参加が増えるようにして、活発な意見交換や、協力関係を築く。	会議の内容を、再度検討しながら、家族が参加できるように、親睦会や、食事会も企画していく。会議の場所もホーム内で、皆が参加できるような環境作りに取り組んでいく。	12 ヶ月
7					ヶ月
8					ヶ月
9					ヶ月
10					ヶ月
11					ヶ月